

けいせん

2019.6.7

新しい年度が始まって2ヶ月。子どもたちも少しずつ園生活、クラスに慣れて好きなお遊びを見つけて楽しんでいます。石・泥・水の感触が大好きで思いっきりどろんこにしている年少さん、友達と遊ぶことがたのしくなり協力しながら大きな石の山をつくらしている年中さん、泥たんご作りのコツをつかんで、友達と小情報も共有しながら「もっとピカピカの泥たんごを！」と集中している年長さん。石やお砂の木葉子からも、子どもたちが「本馬を通り」育っていく姿が見られます。

5月半ば、息子が学校で車庫の木の種を植えて、芽が出た2本を持ち帰り帰ってきました。しばらくして学校に行く用事があり、万が一芽は大きくなったかなと見てみると、すうらりと並んでぐんぐん葉をつけている植木鉢の中に1つだけ、土だけのが... 息子の植木鉢です。「あれー! たんごー?」と驚く私に彼は平気な顔で「大丈夫! まだ芽が出てたんだ。」と。言葉を聞くとどうやら、5つ種を植えて、2つ芽が出ている。後から芽を出すのが大きく育つため出ている2本を持ち帰った、ということのようでした。彼には、種を植えても芽が出ないこともあるという事は想像できなかったのでしょう。それよりも石を植えたのだから大丈夫と「自信?」の方が強かったのかもしれません。その日も忘れず水やりをして帰りました。

今、車庫の育て方もわかる泥たんごの作り方も、インターネットで検索すればすぐにたくさん出てきます。ネットのまわりには知識や小情報があふれています。その知識や小情報を生活の中で生かしていくためには、それを知恵として生きる力に変えていくことが必要です。そのための土台となるのが幼児期の遊びです。遊びの中で手・足・体を動かしてやること、感覚や感触、たんごで、不思議だなと感じること、もっと〜したい〜してみようという挑戦したい言動や行錯誤すること、その原動力となるたのしい、うれしい、くやしい等の気持ち... 木葉子や経馬舎を通り子どもたちは生きる力の基礎を身につけてながら成長していきます。今年度もバトリーをたくさん動かす生活を支援、ご家庭とご一緒に子どもたちを育てていきたいと思っています。

さて、息子の車庫は...。彼の「たんごだろ?」「困ったなあ」というバトリーの動きや気持ちをとらえつつ、しばらく見守ってみようと思います。

